

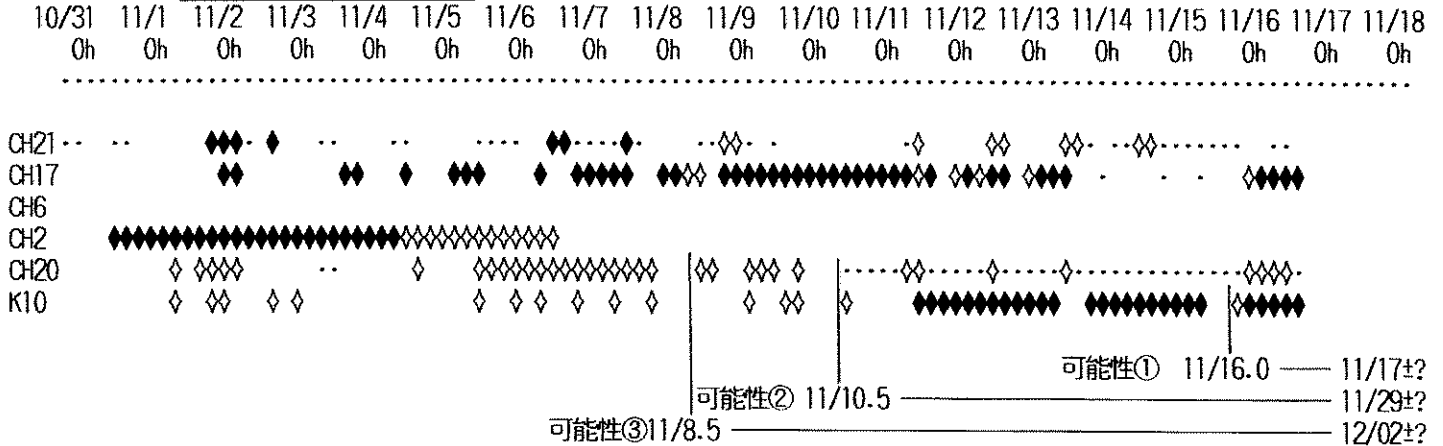
原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況 11/16前兆終息せず K10 CH17 に前兆出現
現在 極大を形成中の可能性

可能性①=11/16 日中に極大の場合
可能性②③=11/17.0±に極大出現と仮定して計算

【STAGE-20】



昨日の続報で、No.1778長期継続前兆第20ステージは、その時点迄の最終認識前兆=11/13.5 に対し、本日11/16 昼前に前兆が終息した場合は、第20ステージが示す 11/17±に対応地震が発生する可能性大との見解を報告致しました。

ところが、表題のとおり、高知観測点のK10 とハヶ岳南麓のCH17に顕著な特異前兆が下の通り出現し、現在継続中です。

CH17 =11/16 23時より糸状特異継続中
K10 =11/17 00時より顕著特異継続中

第4番目の極大か、第20ステージが示す第21ステージの極大か？

前述のCH17, K10の顕著な前兆出現は、明らかに極大を形成中であることが明らかです。同時期の前兆としては、ハヶ岳のCH20に特異が出現していますが、本日日中に顕著で、夕刻現在は静穏傾向です。このことから、本日日中に極大となった可能性も否定は困難です。その場合は、最短の可能性として、11/17~18発生の可能性も否定できません。この場合は、18日未明迄、

前兆が継続出現する可能性があります。

現在出現継続中のCH17, K10特異が明日17日午前中も継続出現していた場合は、当然ながら17日発生の可能性は否定されず、仮に誤差範囲である18日発生の場合は17日夜に終息することになります。しかし、18日午前中も前兆が継続する様であれば、11月16日~17日期間中に極大が出現の可能性として、上記の可能性②又は③の初現の可能性として、今月末前後の可能性が示唆されることとなります。今後の観測データを見ないと決定は困難です。18日迄に対応地震が発生せず、前兆が継続した場合は、極大を見極め、再推定予定です。

- ◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域
太線領域内付近=可能性考え易い推定領域
※岐阜県~福井県 (石川県南部と滋賀県北部含)
- ◆推定規模：M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期：
可能性① 11/17 or 18 (11/17前兆終息の場合)
可能性② 11/30 ± 3 (今後の観測必要修正有)
- ◇推定地震種：震源浅い陸域日本列島の地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前9時 ± 1 (又は午後6時 ± 3)
(※前震発生の場合は無効)